**第２回市民自治推進委員会　都市調和部会会議録**

（敬称略）

◆開催日時：平成２８年５月３１日（火）　１８：３０～

◆開催場所：登別市役所２階　第１委員会室

◆出席部会員：部会長　　長部　正之

　　　　　　部会員　　山下　克彦

　　　　　　　　　　　荒川　昌伸

　　　　　　　　　　　谷﨑　博美

　　　　　　　　　　　草野　義彦（協働推進庁内委員会）【都市整備部次長】

　　　　　　　　　　　南　　三明（協働推進庁内委員会）

【都市整備部都市政策Ｇ総括主幹】

◆欠席部会員：部会員　　中川　信市

　　　　　　　　　　　西尾　拓也

◆事務局：　　　　　松田　　毅【市民生活部次長】

笠井　康之【市民生活部市民協働グループ総括主幹】

　　　　　　　　　　　有馬　亮太【市民生活部市民協働グループ主任】

◆議題：「健康」に関する取り組みについて

**≪事務局≫**

前回、１回目の会議の中で市民自治推進委員会の今後の方向性というのが決められました。

　４月２５日に市民自治推進委員会の全体会議がありましたが、その中で自治推進委員会の方向性という形で、６部会がバラバラの方向に進むよりは、各部会で共通した柱というものを設けて進めていくべきでしょうという話で、その柱として健康というもので進めて行こうという形で委員の皆さんの同意を得ているところであり、各部会で健康を柱で進めて行こうという話になっております。

　その健康というのは、身体的な健康だけではなくて、精神的な部分を含めた健康、心と体それぞれの健康を含めて進めていければという話がありました。

　健康を柱としておりますが、健康という部分を目標にするのであれば、各部会においてそれぞれ何らかの形で関わることができるという考えに基づいてやっております。

　今日の部会については、都市調和部会の中で健康という部分を柱として、どのようなことに取り組んでいけるかということの方向性を見出していただければと考えています。

　お手元にＡ４の資料がありますが、これは第３期基本計画の第４章にぶら下がっている事業の一覧です。

　この資料自体は、今日使うというものではなく、その中で健康という部分で関わる部分、興味があるなという部分があれば、ＦＡＸの送信票も一緒につけておりますので、そちらの方にその事業名を記載していただければ、次回の部会の時にその事業について説明していきたいと考えています。

　今後の流れとしては、２、３回程度部会を開催し、そのあとに各部会の部会長、副部会長会議を開催して、それぞれの部会の進行具合等の情報共有を図っていければと考えています。

　その中で健康という柱について各部会でどのような議論が行われているかという部分の共有をしたいと思っています。

　市民自治推進委員会で、市の方で何か反映させる部分があれば、今年度については予算計上しておりませんが、来年度以降の予算に反映させるということであれば、秋ぐらいまでに決まる部分があれば、予算に反映できればよいと思います。

　会議のルールについては、これまで何回も話があったと思いますが、他の人の話をよく聞いていただき、否定はしない、長々話さないといったようにこれまでの市民検討委員会と同じように進めていただければと思います。

また、前回の全体会議の時に各部会の方で部会長、副部会長を決めていただきましたが、都市調和部会は人数が少なかったため、部会長は長部氏に決まりましたが、副部会長が決まっておりません。のちほど副部会長を決めていただければと思います。

健康というテーマでこの部会でどういうことが取り組めるかということをざっくばらんに話し合っていただき、ある程度の方向性を見出していただきたいと思います。

**≪部会長≫**

　各部会で話し合っても、全然向きが違ってくると、できるものもできなくなるのではないかということで、部会長副部会長会議の中で、健康に焦点を当てて顔を同じ方向に向けませんかという話になりました。

　それから、市の既存事業でこの部会と関係するものを絡めてやった方がよいのではないか、新しいものを出すのは難しいということでした。

　第４章ですと、インフラになるので健康と考えるとお金がどんどん出ていくイメージであり、例えばバリアフリーや道路改修などがあります。

　部会長副部会長会議では、健康と結びつかないという話もしましたが、医療費の絡みや健康年齢が上がっていく必要性などの話なども含め、健康ということになり、どのように実現していくかということになりましたが、切り口はどのようにしていけばよいでしょうか。

**≪事務局≫**

　各部会でも健康についてざっくばらんに話をしてもらいましたが、第４章の中で関連するものを自由に話していただきます。全体的に広くやるよりは、絞ってやった方がよいと思います。

**≪部会員≫**

　ジョギングコースやサイクリングコースを作るとかそういうことではないでしょうか。

**≪庁内委員≫**

　精神的な健康もあります。

**≪部会員≫**

　２０００年に市内４箇所のマップを作り、その中では散策コースを設けていました。例えば、フットパスのネットワークができれば、景観や自然資源があり面白いまちになると思います。

北海道では、道東でもフットパスが作られていて、牧草地を活用し何十件もあります。故郷の自然を知りつつ、健康に寄与できると思いますし、アイヌの人々が北海道で活躍した場所です。

ただし、作るということになるとお金がかかる部分もありますので、私有地民有地を通ってよいということにならないと難しいです。道東にあるフットパスは、どのようにしてできたかというと、牧草地を活用してみんなで管理しています。

**≪庁内委員≫**

　歩いて健康という感じでしょうか。

**≪部会員≫**

　歩いて周りの景観や文化に触れることもできます。一部の人だけではなく観光にも繋がります。観光やアイヌ文化に繋げていくとフットパスの中で花を開かすことができるのでないかと思います。

**≪事務局≫**

　４章の中では、都市整備基盤や道路、緑化などがあるが、関わりはあると考えてよいのでしょうか。

**≪庁内委員≫**

　関わりはあるかと思います。

**≪部会員≫**

　鷲別のマップは１６年前に作ったため一部修正が必要ですが、他は使えます。

**≪庁内委員≫**

　歩くのが健康の基本です。

**≪部会員≫**

鷲別も海岸沿いで歩いている人が多くみられます。１キロ地点、２キロ地点と目印をつけて、行って帰ってきて何キロだったというようにしてスタートするのがよいのではないでしょうか。

**≪部会員≫**

そこからスタートした方がよいでしょう、散策コースとか。

**≪庁内委員≫**

　昔、札内地区などでマップを作りました。

**≪部会員≫**

　時期が早かったと思います。今まさに健康志向になってきているため、そういうマップを作ったら持っていく人がいるでしょう。

**≪庁内委員≫**

　昔、札内で大地の祭典がありました。

**≪部会員≫**

　それも時期が早かったと思います。前に復活させようかという話もありました。

**≪部会員≫**

　確かに面白いイベントでした。

**≪庁内委員≫**

　走って、肉を食べてなどの内容でした。

**≪部会員≫**

行ってみようかというスタイルにしなければなりません。

**≪部会長≫**

　マップにも、ここまで行けばおいしい湧水が飲める、ここまでたどり着いたらおいしいご飯が食べられるというような内容が必要です。

**≪部会員≫**

　そういうことも絡めて市民だけでなく色々な人に来てもらえば、将来的に違うものになってくると思います。

**≪部会員≫**

　ニセコ町は、マラソン大会の前日から現地で練習している人もいると聞いています。２、３日前から来て走っているようですし、それによって宿泊にも繋がります。

**≪部会長≫**

　登別には、泊まるところはあるが、キャンプ場はありません。

**≪部会員≫**

　フォレスト鉱山でできるくらいです。

**≪部会員≫**

　オートキャンプ場は必要ではないでしょうか。

**≪部会員≫**

　登別市ですので、オートキャンプ場のそばに温泉がなければ。

**≪部会長≫**

　何かそういう目的があると、散策路を歩いたり、キャンプをしたりする人であれば、折りたたみ自転車を持ってサイクリングをするというような楽しみ方もあります。

**≪庁内委員≫**

　今年は、ロングライドはあるのでしょうか。

**≪事務局≫**

　今年はそういった話は聞いておりません。

**≪庁内委員≫**

　２年前にやった時は、旧天華園からスタートして行いました。

オロフレからは、雲海も見ることができます。

**≪部会長≫**

　オロフレがもう少し高上がりするところにあれば、洞爺湖側も見えて景色がよいですが、夏は茂ってしまい道路からはなかなか見えません。

**≪部会員≫**

　橘湖へ行く道はあまりにも険しいが、結構歩いている人もいます。誰でも行ける場所ではなく険しいです。あんなよいところがあるのにもったいない。

**≪部会員≫**

　歩くとどの位かかるのでしょうか。

**≪部会員≫**

　３０分くらいは歩きます。また、観光名所になると思います。

**≪部会員≫**

　今、この散策路を登別市で綺麗にしたら、なにか言われるのではないでしょうか。

**≪事務局≫**

　あそこは、基本的には自然公園財団があり、草刈りなどもしており、きれいに整備されています。若干急な坂もありますが、一部分であって小学生でも行ける状態になっています。

　財団としては、環境省からの指導により、自然に手を付けないようにという厳しい。また、周りが国有林のため、営林署が管理しており一切そういうことはできないということになっています。

　開発的には難しいと思うが、遊歩道的に整備することの可能性はあると思います。

**≪部会長≫**

　そういうところを巡るような散策路を整備し、健康に寄与するような社会基盤の整備が必要であるのかもしれません。

**≪部会員≫**

　鉱山には、ボランティアでフットパスを整備しているところがあります。

**≪事務局≫**

　どこかに行って歩くよりも、市民的には、近くの歩行空間が必要になってくるのかなと思います。まちの中で川沿いを散歩したり、犬を連れて散歩している人もいる中で、そういうところを歩きやすく整備したり、自然的な部分を整備したりということが必要であると思います。

**≪部会員≫**

　鷲別岬は、散策路の上へあがって戻れるようになっているのでしょうか。

　あそこも、道をつけて回ることができればよいですが。

**≪部会員≫**

　イタンキのフットパスに繋げればよい。登別に限らず、室蘭や白老に繋がるということで連携してフットパスを表現すればもっと広がっていくと思います。

**≪部会長≫**

　マップをもらって近くまで車で行ってみても道がないことが多いです。どこから行ったらよいのか分かりませんでした。

**≪庁内委員≫**

　八戸には、海岸に数キロのウォーキングができる道がありました。それは、アスファルトではない舗装になっており、途中にはレストランや道の駅がありました。今、話していたように、鷲別岬から地球岬まで通じるルートがあると面白いと思います。

**≪部会員≫**

　岡志別の運動公園は、一周歩けるようになっており、テニスコートなどがありますが、もう少し長くすることはできないでしょうか。同じルートでは飽きてしまいますので、長くできればよいのですが。

**≪庁内委員≫**

　あの公園の周りは民地であり、外周で１キロとなるように設計しました。

**≪部会員≫**

　鷲別、幌別、登別、温泉の各地区でそういうところを整備して、健康のために歩いてくださいというようにやってみてはいかかがでしょうか。

**≪庁内委員≫**

　各地域の歩くコースを結ぶこともできるかもしれません。

**≪部会長≫**

最初から欲張ってたくさん考えずに、何箇所か各地域にスタンプでも置いておけばよいのではないでしょうか。スタンプラリーができるように。

**≪部会員≫**

　全部歩いたら、温泉の入浴券がもらえるなどがあればよいです。

**≪事務局≫**

　スマホの時代であるので、写真を撮影するということもできます。

**≪庁内委員≫**

　２次元バーコードを用意しておけば、スマホで読み取ることもできます。

**≪部会員≫**

　情報が知られれば広まっていきます。若草周辺では、跨線橋を渡って歩いている人は多いですが、自然もなく、アスファルトであり疲れてしまいます。

**≪部会員≫**

　室蘭ウィキペディアというものがあります。これは、市町村版ウィキペディアで、地図上にこの場所に散歩道があったということをみんなで載せていくものです。写真などの情報を載せることができ、それらを集めてマップができていくしくみとなっており、情報満載です。著作権も関係なく、出版するものでもありませんので、そのようなものも連動させると面白い。

**≪事務局≫**

　それは、登別版もあるでしょうか。

**≪部会員≫**

　室蘭ウィキペディアを使って西胆振でやっていきましょうということで、登別や白老も室蘭ウィキペディアに載せていこうということになっています。

**≪部会員≫**

　そういうのを熟成させていくとマップになっていくと思います。

**≪部会員≫**

　みんなが使えるＧＩＳです。

**≪部会長≫**

　皆さんから、いろいろ出されましたが、こういう方向性で進めていくという話はできたのではないかと思います。

　実現していくときになれば、市で動いている事業とどう絡めていくかについても話をしていきたいと思います。

◆議題：副部会長の選出について

　副部会長：各委員より谷﨑委員の推薦があり、本人承諾のもと決定

**【次回の日程】**

平成２８年６月２７日（月）１８時３０分から